

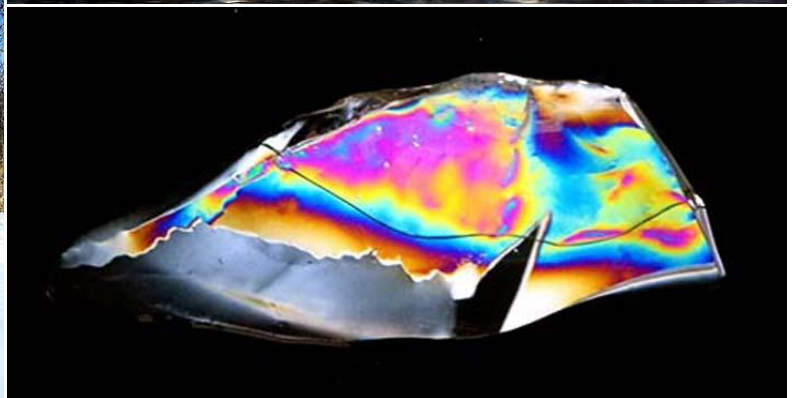
月刊 やちまなこ

2014.3.15 発行

No. 196

3 月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



陽の光も強くなり、春の気配が感じられるような矢先、低気圧の影響で湿った雪をドサッと置いて行った。重たい雪に除雪作業も時間の経過とともに手や腰も重くなり、眼は涙でボロボロとなる。先日、南下していたヒシクイが釧路湿原上空に姿を見せた。

雪景色の中、水辺を探しているのか？その群れは大きく旋回しながら鳴いていた。



コッタロ川と湿原のほとりから

165 3月のコッタロ湿原便り

コッタロ在住・中本 アキ子(文) 中本 民三(写真)

日脚が伸びてまいりました。氷点下二桁台を脱したコッタロでは、粉雪混じりのアキロンが阿寒風となって吹きすさぶ最も厳しい時節をくぐり抜け、夜明けには暁のしっとりした空気が流れ込み、日中のえも云われぬ日差しにうっとりし乍ら暮らす昨今です。

さて、ほぼ一月を交尾に費やしてきた丹頂の番達は、いよいよ産卵の時を目前にして、神妙な面持ちで歩を進め湿原と庭池とを往復しておりますが、今日明日にも抱卵を開始するのではないのでしょうか。

月に一度は必ず訪れた周期的な暴風雪のお陰で心おきなく本格的なクロカンスキーに没頭する毎日。午前午後各々1時間余り汗だくになる壮快感には抗し難く、止められるものではありませんね。又、大荒れの後の一皮むけた様な蒼穹に描かれる様々な形態の雲を背景に、丹頂等の神聖なる儀式と、嬉しさの余り舞上がっている子の姿をパチリ。この世のものとも思われぬ夢の様な景色をごらん下さい。

ところで、今季珍しくも庭のツル池にうっかり舞降りたのは尾白ワシの幼鳥で、恐らく日常見馴れた丹頂の『こわさ』を初めて体験したことでしょう。このエリアでは例年一羽のヒナをかえす尾白の番が鷺とすみ分けていて、湿原上流部の林に営巣しているのです。この日、あまりに接近し過ぎて丹頂のコツ&タロに騒がれてしまい、おっかなびっくり飛び立つのでした。斑模様が美しいこの子も、やがてはまっ白い尾羽の魅力的な成鳥になることでしょう。それがとても楽しみではありませんか。



湿原の住人たち その156

ゴジュウカラ



一年中見られる留鳥で冬の間はシジュウカラなど他のカラ類と混群を作ったりします。北海道ではシロハラゴジュウカラとも呼ばれ、お腹が白いのが特徴です。あるこつとの餌台では常連さんで、ヒマワリの種を木の隙間にはさんで割って食べたり、特技の逆立ち下りで幹の周りを自在に動きながら、樹皮をはがして昆虫やクモを探したりしています。ゴジュウカラの力強いさえずりが響く季節になりました。

自然ふれあい行事「バードカービング講座」「釧路湿原フィールドウォッチング」を開催

予定では2月16日の開催日でしたが、悪天候のため今月1日に延期しました。最終講座の5回目はアクリル絵の具を使い彩色作業が中心となり、重ね塗りをしながら、グラデーションをつけ、毛の生え際や色の違う部分は細かい筆で線を描いたり、ぼかししたりして仕上げることを教わりました。すでに作品を完成させた参加者は止まり木に固定していました。今回作成した作品は講師の作品も含め、7月20日から8月17日まで、センターレクチャールームで作品展を開催します。



今月8日には釧路湿原フィールドウォッチングを蝶の森周辺で開催しました。近くにあるシラルトロ湖ではワカサギ釣りをする人を横目に散策していると、エゾシカやキタキツネの足跡が雪の上に残されていました。参加者が見上げている木ではアカゲラが盛んに突きながら餌を探す様子が観察でき、他にも湧水のある場所、炭窯の跡や縄文時代の竪穴住居跡では先人たちの生活の様子などを知ることができました。SL冬の湿原号の力走する姿も見られ、行事終了後、「憩の家かや沼」の温泉に浸かり汗を流しました。

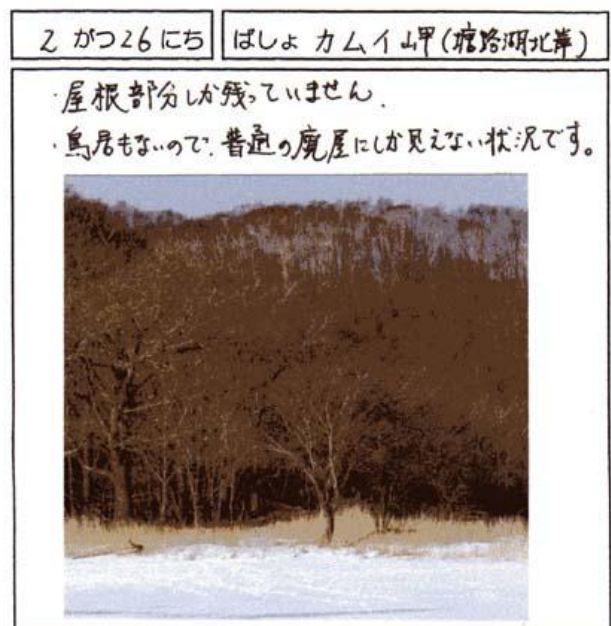
つぼっちの塘路周辺うろうろ日記 Vol.73 「カムイ岬神社の倒壊・・・！」

以前ご紹介した事がある、冬季間にしか行く事が難しい、いわば幻の神社「カムイ岬神社」に先日行ってきました。

「カムイ岬神社」は、明治25年に塘路へ入植した香川県の貫誠社という団体が建立した神社です。神社は塘路湖南岸にあった入植地より湖を跨いだ北岸に作りました。しかし貫誠社は入植の失敗により約1年で離散。その後塘路に住むアイヌの人々は、(祀る人々がなくなった神社が) かわいそうだと、すぐ近くにアイヌのヌサ(=祭壇)を作り、ペカンベ祭りと呼ばれる祭事を行ない、神社も保存してきました。神社やヌサのある塘路湖北側は急斜面が多く、北側から回り込む事が難しいので、必然的に冬季間に湖上を歩くのが最も楽な行き方です。

早速行ってみると、社が見えない事に気づきました。近づいてみると社が倒壊しています。周囲の人に聞いたところ平成24年の夏に倒壊したようです。この地の和人とアイヌの人々との交流を物語るカムイ岬神社。普段あるべき建物が無くなっている光景に衝撃を受けました。

坪岡 始(標茶町郷土館学芸員)



4月の行事カレンダー

各行事とも事前の申込が必要です

春のバードウォッチング

[日時] 4/19 (土) 10:00~12:00

[定員・参加料] 15名、無料

[場所] シラルトロ湖・蝶の森周辺 (集合場所は憩の家かや沼駐車場)

[持ち物] あれば双眼鏡をお持ち下さい。フィールド状況によっては長靴が必要です。

[illegible]

早春の湿原ハイク

[日時] 4/13 (日) 10:00~12:00

塘路湖・シラルトロ湖・コッタロ湿原周辺の自然情報

【植物】(2/24)乾燥したヤマブドウの実、ヤチダモのタネ (3/8)キハダの実、エゾノコリンゴの実、スゲの芽、ノリウツギのドライフラワー (3/9)フクジュソウの芽 (3/11)キハダ、オニグルミ、タランボの葉痕

【鳥】(2/19)ツグミ、タンチョウ番い、ホオジロガモ (2/21)ノスリ、ワタリガラス (2/22)エゾシカの死骸にオジロワシの姿 (2/24)オジロワシ (2/25)オオハクチョウ、アオサギ、マヒワ (3/8)(ミヤマ)カケス、ヒヨドリ、キバシリ (3/10)マガモ、カワアイサ、アオサギ、オジロワシ、オオワシ (3/11)ヒシクイの群れ (3/14)シメ、(シマ)エナガ、ベニヒワ

【その他】(2/16)暴風雪 (2/19)エゾシカ (3/9)SL 冬の湿原号最終運行日 (3/10)氷上ワカサギ釣り終了.エゾシカの死骸に野犬の姿 (3/11)エゾユキウサギ・キタキツネ・タンチョウの足跡

- 3月に入りエゾシカの移動が始まっているようです。国道391号線の塘路湖・シラルトロ湖付近と道道1060号クチョロ原野塘路線は、道路を横断するエゾシカも多い場所です。車を運転する方は、車間距離を十分とって路面状況にあわせた安全運転をお願いします。

- サルボ展望台・コッタロ展望台を利用する方は、雪解けが進んでいるとはいえまだ雪深い所がありますので、長靴などを履いて散策することをオススメします。

- ◆日出・日入時間 3/15(5:35, 17:28). 3/31(5:07, 17:47). 4/14(4:43, 18:03)



岸辺にたたずむアオサギ (3/10 二本松橋)

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あるこっと

☎088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野

TEL:015-487-3003 FAX:015-487-3004

E-mail: emc@hokkai.or.jp

開館時間 10：00～16：00（4月～10月は17：00まで）

休館日：毎週水曜日 12月29日～1月3日 入館無料